

それぞれがコストとしてかかわれる時間を提供することが必要なんじゃないかなと思って。

・今の時代に家族を持たないと子どもを持たないという、社会的自己実現のほうが、現在のほうが自分にとっては有意義だろうというてんびんかけられる時代になってきちゃったんですよね。今までは、核家族というのは、父親が働くのを助ける、バックアップする機関だったと思うんです。それが夫婦共働きとか、女性の権利の拡大ということによってバランスが崩れたわけで、家庭が安心できる場所だとか、常に母親がいて子どもがいて楽しい家庭があるかといったら、そうじゃないという時代になったら、今度は家族というものと社会的自己実現というものは切り離されたものだと。そういうところで家庭に興味を持てなくなる人たちがふえるというのは、ある意味当然なんじゃないかな。それは別に自然なことで、何も大きく問題はないんじゃないのか。家族じゃないにしろ、何らかの新しいシステムがあればなるわけだし、それはしょうがないんじゃないか。家族を持たないことイコール子どもを持たないことになってしまえば、結局少子化も進むんじゃないかという感じがするんです。

・そういう私立の教育システムというものも、信頼ができるものであればいいんですか。いつでも見にいけるとか閉鎖的じゃなければ、オープンであれば。

・子どもを育てることがコストだという時代であるというのは、すごく寂しい時代なんじゃないかなという感じがするんですよね。だから、子どもを育てることがどういふことなのかというのを、僕たちの世代が真剣に考えていくことが、これからの時代にもっと大切なことじゃないかなという気がします。

・社会的に見れば、もちろん自分が子どもをどう育てるかというのもそうですけど、それは自分がどういう環境で育ってきたかということを反省する意味でも、いい一面があるだろうし、これから自分が親になるという意味でも、あるいは社会人になるということでもそうだと思うんです。育てられているときに自分がコストだと感じられていると知ったら、子どもはすごくショックだと思うんですよね。でも、一面ではそれは真実だし、しょうがないでしょうけれど。

■その他

・(もし自分に子供が生まれなかったら)養子でもいい。社会のああいう子どもでもいい。自分が伝承しなきゃいけないことというのは、自分の子どもじゃないといけないのかどうかというところ。……………。

僕は地域教育というものを考えてやってみたいなと思っているんです。そこでは、自分の子どもも当然そこに参加しているんだけど、周りにはいろんな子どもたちがいて、大人たちもいろんな大人たちがいて、その中でいろんな子どもの教育に関してどうやったらうまくいくかということ話し合いながら、いろんなことを子どもたちと一緒に学んでいけるような場を考えていきたいなと思って。そういうときに、自分の子どもに特化しないといけない理由が、もしみんなの中にあるんだしたら、そういうものがすごく結果として障害になるものもあるのかなと思って……。それがちょっと……

・かつては割と普通にそうだったと思うんですけど、現在において、もし自分の子どもを育てることが一番大切なんだという価値観があるとしたら、それがどこから出ているのかちょっと知りたかった。

・自分の子どもじゃないといけないのかという問いが結構いつもあるんですけど、そうでもないかなと思っているんで、あんまり自分の子どもを産まなければいけないという意思はないといえませんが。やっぱり g 氏がさっきおっしゃったみたいに、神秘的なものというのは僕も感じる場所があるんで、そういうものに引かれるのかなというところはあるんです。これとって、自分の子どもじゃないといけないんだということはないかな。

b氏

■年齢：22歳

■学歴：大学在学中

■婚姻状態：未婚

■子の有無：無し

■居住形態：実家（親と姉と同居）

■母親の就業：ずっと自営の仕事(農業を含む)や内職を続けてきた

■家事能力：例えば、やれと言われてそういう状況に陥ったらできなくはない。それも初めはどうかわからない。そういう経験がないから。それこそ小中高校のときの家庭科の授業じゃないけど、そういうレベルの話では別に全くできないというわけでもないし、やればできるのかなと思うし、ただそういう状況にないから自信がないというか……。

■結婚の希望

有

■結婚年齢の理由

やっぱり(親の年齢と子の年齢が)離れ過ぎちゃうと、もちろん育てたときにすごい年になっちゃうし、その後が短いというのもあるし、子どもにとってもあんまり離れていないほうが何か。

■理想の婚姻形態

自分は働きたい。共働きでも。もし結婚したときに、奥さんになる人が仕事も大事にしていきたいという価値観を持っている人だったら、共働きで行くのがベストだと自分も思うし、その人が「いや、自分は子どもをずっと面倒見て育てたいから、会社もやめて主婦になる」と言う人だったら、それはそれでいいと思うし、そこはお互いを尊重して一番いい形に……。だけでも、そのときに自分の価値観としては、自分が家に入るということはあんまり考えないですね。

■子どもがほしいかどうか

有

■子どもがほしい理由

・自分はどうせ死ぬけど、自分が死んで終わっているよりも、何かそうやって続いていて。子どもを見たら、自分の存在、アイデンティティーみたいな。

・そういう何か人間だからこそ、人間じゃなくても動物もそうだけど……。かわいいもそうだけど、社会として人間として子どもはつくって、そういうことを漠然と……。自分のあこがれというか、やっぱ神秘的……。そうあるべきじゃないかと。べきでもないけど。

自分は結構ちっちゃい子とか見ててかわいいなと思うんで。別に子どもは嫌いじゃないので。子どもとかを見ると、子どもは結婚したら欲しいなというところにつながる。

・まず自分の親がピアノの先生をしてて、ちっちゃい子がすごい家に来るんです。自宅で

やっているんで。幼稚園とか低学年、子どもといっても、僕の場合はそれぐらいの年齢を指しているんですけど。その子と接したりするとかわいくて。発言とかがおもしろいし、何かかわいいなと思うし。人の子だから、自分の子だったらなおさらだろうなと最近思うようになった。

■理想の子供数

理想は2人。

■理想の子供数 理由

・1人だとやっぱり……。きょうだいがいるということで、それで人間的にというか、得られるものがあると思うんです。きょうだいという関係として成長していく中で何か、子どもにとって一人っ子では感じられないような大切なこととかが感じられるような何かある気がするし、あとは育てるという立場から見て、2人ぐらいが一番経済的にとか何かから多分育てやすいのかなと思う。

・多いとやっぱりそれだけ、育児とか時間がかかるし、お金もかかるし、自分たちの愛情とかがすべて子どもに注げて、自分たちの時間も大切にできてとか、そういう感じの、2人ぐらいがいいんじゃないかなと漠然と思います。

■子育て観

・やっぱり自分は結構仕事とかして、社会的貢献じゃないですけど、そういう家庭のプライベートなタイムと同時に、人間として社会に貢献していくようなことにも生きていく意義があると思うんですよ。だから、自分がそうやって社会的・・・を生きていく中で達成して、自分の子どもにも、自分たちが今までもっと前から続いてきたけど、そういう社会を担う1人として生きていってほしいという意味で。別にほかの人も、全く自分の子どもじゃない人にももちろん頑張ってもらいたいけども、自分の子どもにも。自分の子どもを持って子どもが立派に社会で貢献したり、支え合ったりという一員になっていってくれるのが(いいと)、自分的にはそう思う。

・わがままに育てなければいい。お金はあっても、変に甘やかすことをしなければいいわけで。やっぱり経済的問題はすごいかわるかな。

■子どもの性別の希望

僕は、一番上に姉ちゃんがいて……。そうじゃなかったら別にいいんですけど……

何かお姉ちゃん、一番上だったり、求めちゃいけないんだろうけど、面倒見がよくなってくれるのかなとも思うし、だけど、男の子と遊びたいというのもあるし……。すごい自己満足かもしれないけど、箱入り娘を育てたいというのが。(笑)

c 氏

- 年齢：21 歳
- 学歴：大学在学中
- 婚姻状態：未婚
- 子の有無：無し
- 居住形態：一人暮らし・西所沢（実家は北海道）
- 母親の就業：その他

■結婚の希望

有

・(結婚したいんだけど、もしかしたら結婚しないかもしれないと思っている?)はい。このまま何かずるずる行くかなと……………。(笑)

■理想の婚姻形態

(奥さんが専業主婦でも働いていても) どちらでも。好きにやってくれと。(笑)

■婚姻形態の理由など

(奥さんが専業主婦じゃなくて共働きだったら、やっぱり自分が育児や家事というのはそれなりにやっていかないと、多分回らないというのが想定されるが、) 自分の子どもだから、どちらでもいい。

■子どもがほしいかどうか

有

■子どもがほしい理由

やっぱかわいい。

結婚するんなら子どもはやっぱ欲しい。

■理想の子供数

僕も2人です。

■理想の子供数 理由

男1人、女1人。子どものことを考えているんじゃないですけど、自分が育てる場合として、男、女とではやっぱ違うと思うんで、経験できることは全部したいなという……。

■子どもの性別の希望

男1人、女1人。

■子育てへの参加意識

・(子育てするつもりは)ありますけども、自分が専業主夫みたいになるのは……

(例えば、働きながら育てるというのを、できることをやるというのはやりたい?)そうですね。

・(例えば、土日とかは自分がメインでやるというんでも、全然(オーケー)?)それは別に全然いいですけど。

・やる気というか、時間の使い方を知らない。土日を使い切れない。それなら自分の子どもといたほうが……。

d氏

■年齢：22歳

■学歴：大学在学中

■婚姻状態：未婚

■子の有無：無し

■居住形態：一人暮らし・所沢市（実家は愛知県）

■母親の就業：子どもが大きくなってから再就職した

■結婚の希望

有

■理想の婚姻形態

あまりイメージしていないけど、どうしても専業主婦をやりたいというなら、やってもらってもいいと思うんですけど、専業主婦に対してあまりいいイメージがなくて、あんまり健康的じゃない気がして……

やっぱり共働きのほうがいいような気がします。

■婚姻形態の理由など

もうちょっと社会に対して働きかけが……。仕事をしたほうがいいんじゃないかなという気がして。仕事はしていたほうが、家事とかもシェアできるし、仕事をしている上での痛みとかもシェアできるから、やっぱり共働きのほうがいいような気がします。（その共働きというのは、男性と同じような働き方をすることをイメージする？ それとも、パートタイムで〔10時－4時とか？〕お昼に5時間だけ、保育園か幼稚園の送り迎えには間に合う程度の共働きを意味しているのか、それとも普通に企業に勤めてフルタイムで働くというのを意味している？）それもあり得ると思うんです。僕がイメージしたのは後者でした。会社。

■子どもがほしいかどうか

有

■子どもがほしい理由

僕はそこまで子どもが欲しいとは思わない。子どもはいたらいいと思うんですけど、もし生まれなかったら生まれなかったで、そのときは、子どもがいない人生を楽しんで。

■理想の子供数

僕は正直何人でもいいんですけど。具体的に言うなら3人かなと思います。

■理想の子供数 理由

その理由として、3人の兄弟というのが一番IQが高くなるという情報……。笑）本当にそうなるかというのを……。笑）3人ぐらいなら社会ができるんですね。子どもの社会。

■子どもの性別の希望

男女の産み分けは望んでないんですけど。

■育児休業その他

・就活して、育児休業制度があるかないかというので、会社を選んでいる人は多くいました。

・ホームページとかも、そういうの(育児休業制度)を見るようにできていないんです。そういうところ、まず。

・大きいところは書いてあるけど、企業側がそこをアピールしたりするような社会ではないということで。だから、普通に書くけども、男としては考えないほうが……。 (多少不利になるかもしれない) そうそうそう。思いました。

e 氏

■年齢：22 歳

■学歴：大学在学中

■婚姻状態：未婚

■子の有無：無し

■居住形態：実家（埼玉県蓮田市、両親、父方の祖母、弟）

■母親の就業：子どもが大きくなってから再就職した

■結婚の希望

有

■理想の結婚年齢

父が、多分おれが 35 歳のときに……。 (笑) おれができたと聞いたので。それよりはというのがありますね。

■理想の婚姻形態

専業主婦は、むしろ嫌だというほうかもしれないです。ただ、それは自分の価値観というのでしょうか。それとも変わっていくのか。自分が専業主夫になるかもという意識も含めて……。 それもあり。奥さん働いてください。私、子どもの面倒を見ますという……。それの逆が多分ない。おれが働きたくないという……。 (笑) むしろフルタイムで働いてほしいなど……。

■婚姻形態の理由など

家族的価値観より社会的価値観のほうを重視する人間なので、もしも奥さんがいるとしたら、奥さんにも社会的一員であることをやってほしいなど……。結婚するならば、多分奥さんの意思のほうを第一にするだろうなというのがあって、奥さんがバリバリすごい勢いで働きたくて、家族にあんまり手をかけたくないというなら、おれ専業主夫になっちゃってもいいかなというような気もあって。でも、別に普通にシェアしてくれるぐらい余裕があるんだっただらば、シェアしたいなという、そんな感じで。あとは社会的状況による。育児休暇がどうたらとか。それになるのかなとか勝手にそう思っていますけど。

■子どもがほしいかどうか

有

■子どもがほしい理由

自分が子どもを持ちたいと思う一番の理由は、どんどん老いてきたときに、60 歳とか 70 歳とかになったときに、自分の身近な知り合いとか周りの人とか過去の関係とか惰性化してきて、どんどんそれがなくなっていくという孤独感というのが怖くて。年をとったときに、50 年後とか。そこに子どもがいたりすると、孫とかいて、そういうつながりがあったほうが絶対にいいなという、そういうことです。

■理想の子供数

多分僕も2人ぐらい欲しい。

■理想の子供数 理由

理想というのは話がちょっと違ってきちゃうんですけど、やっぱ2人以上、3人とかになってくると家計のほうに苦しいのかなとか……。

■育児休業制度の取得意欲

いろいろ現実的に話し合った上で、期間は無理かなというのものもあるんですけど、活用できるならぜひ活用したいですし。

■育児休業その他

(育児休業を取ると)不利になるとかいうことを気にしていた女の人は……いますからね。

■子育てへの参加意識

やっぱり自分に子どもができたとしたら、生まれたその子にちゃんとかかわってあげたいと。

■少子化問題について

移民の受け入れとか、そういうのはどうですかね。

f 氏

- 年齢：20 歳
- 学歴：大学在学中
- 婚姻状態：未婚
- 子の有無：無し
- 居住形態：一人暮らし・所沢市（実家は神奈川県鎌倉市）
- 母親の就業：その他
- 家事能力：ごみ出し、ふろ掃除、洗濯、掃除機かける。

■結婚の希望

有

（結婚したいんだけど、もしかしたら結婚しないかもしれないと思っている？）思っていますね。しないかもしれないというのは、どっちかという仕事をバリバリやって、そのまま何事もなくみたいな感じをイメージしている部分もあるけど、結婚して家庭を持つてというイメージもあるんですけど、将来像として。どっちになるかは……

■理想の婚姻形態

子どもを持つなら、専業主婦になってもらったほうが……。

■婚姻形態の理由など

基本的に家にいるんだけど、時々仕事に行くみたいなのだったら、あれだと思うんですけど、パートだとかフルタイムで働くとかは、子どもが帰ったときに家にだれも人がいないというのは何か……とか……とか……とか……。

■子どもがほしいかどうか

有

■子どもがほしい理由

・(子どもについてかわいいとか割と意識したり感じたりすることはありますか?)あります。電車に乗っているときかわいいと思ったり……。

・(子どもについては、)僕も結婚したら持ちたいと思います。でも、結婚しないで生きていく人生もありだと思っているんで。もちろん結婚して2人で生きていくのもありだし。子どもがかわいいとか神秘的だとか、そんな理由から持ちたいとは思っている。あまり考えてない。

・今ちょっと思ったのは、経済的に少しぎりぎりぐらいのほうがいいかな。あまり余裕があり過ぎると、わがままに成長する……。 (笑)

・(かぎっ子は)まだかわいそうだと思います。

■理想の子供数

自然に任せるで。(笑)

■理想の子供数 理由

そんなに考えたことがない

というか……。時々あるじゃないですか、こういう質問が。でも、あまりイメージがわからないというか……。

■育児休業その他

そうですね。いま言おうと思っていたこと言われちゃった。(笑) 短く働くというのが、さつきいいと思ったんですけど、短く働いてそこのやっていない部分で……。

■子育てへの参加意識

子育てはしたいですね。

(子育てにやる気は一応ある)今のところは。半分半分ぐらいというのは、多分自分の中ではちょっと無理。自分の中では働きたいというのがあるから、どっちかというと奥さんにやってもらいたいなというのがありますけど、もちろんやれるところはやります。

■少子化問題について

・(少子化は問題だと)思わない。

・言い方がきついんですけど、むしろ人間ちょっとふえ過ぎたなという…… (笑)。

g氏

■年齢：22歳

■学歴：大学在学中

■婚姻状態：未婚

■子の有無：無し

■居住形態：実家（両親、兄父方の祖母と同居）

■母親の就業：結婚前からずっと勤めを続けてきた

■家事能力：やれと言われたら、結構「うん、やりますよ」みたいな。

■結婚の希望

有

■理想の結婚年齢

30の前で結婚したい、と思うんですが、やっぱり仕事のとかの関係で波に乗らないといけないだろうし（笑）。現実的に無理なのかという。（なりそうなのは）やっぱり30ぐらい。30ちょい。

■結婚年齢の理由

勝手にそう思っているんですけど、子どもができたときに親がある程度若いほうがいいなというのがあって。うちなんかは僕自身が、親が30を超えてからの子どもなんで。平均より遅いかというと、遅くもないと思うんですけど。でも、若いほうが……。それこそ自分が年とっていても、また別の楽しみというのがあるんじゃないかなと。自分がある程度若いほうが。ただ単に自分がある程度若いうちのほうがおもしろいかなと。

■理想の婚姻形態

自分が仕事をやりたいという気持ちがあるから、もし自分の奥さんになる人がやりたいというんだったら、自分がやりたいというんだからその人にやらしてあげないと仕方ないだろうし。そうやった上で、やっぱり子どもも欲しいとお互いに思うんだったら、それも実現させるすべを考えていくしかないのかな。だから、何かを切り捨てるということよりも、できる限り全部やっていくという道を考えることのほうが大切かなと。そう考えると、どちらかが家に入っているというんじゃなくて、奥さんが仕事をしたいと言うんだったら、奥さんも仕事して自分も仕事して、その上で子どもを育てるといって……。だけど、今の日本の世の中では、そういうのがすごい難しいなというのが現実問題としてあるから、果たしてどこぐらいまでできるのかというのが、まだ仕事していない自分たちにとってはリアリティーがないから、深く考えられないというのがあると思うんです。それは自分たちが変わるべきというよりも、社会が変わるべきなんじゃないかなと思うんです。

■子どもがほしいかどうか

有

■子どもがほしい理由

・もしかしたら、僕の中のイメージだと子どもが前提にある。家庭となると、もちろん奥さんと2人で生活するというのもあるのかもしれないけど、やっぱり家庭というものを考えるときに、一番初め絶対僕は真ん中に子どもがいるんじゃないかなと思うほうだと思います。それは人それぞれだろうけど。だから、やっぱりかわいいちっちゃい子とかと、それこそ親戚でちっちゃい子と遊んでいたりと、何か「幸せだな」みたいなを感じて、そういうところから結婚とかそういうものを意識し始めたのかなという……。

・やっぱりある程度大人というか、大人にならないにしろ、その子たちにとってお兄さんとかそういう存在になったときは、やっぱりかわいいなって思った。

・自分と自分がすごい好きな人として、その二つの要素が合わさってできるものというのはすごい神秘的だなと思うし、絶対にかわいくてしょうがないだろうな。ある意味半分は自分の分身だし。すごくそこに喜びがあったりとか、何かまた新しい大切にしたい要素が生まれるだろうなと思って、そこでの喜びを考えると、子どもは欲しいな。何か世の中にあるものを自分のものにして喜ぶというのも、もちろんある。仕事だったりとか、漠然とした何かものだったり。車が欲しいとしたら車が欲しいという、そういうものもあるけれども、そうじゃなくて自分たちがつくっていけるものでつくっていけるという変な感じだけれど、生み出せるもの。それがすごい自分の喜びにつながるものはずごいいいなと思って。多分その先にある、子どもが成長してったり何だったりという喜びを考えて、子どもを持ちたいと思うのかもしれない。

・だから、さっき自分の老後を考えてという意見があったけれども、僕は、それはすごく付加価値的なもので、そこまで別に考えていないというか、想像力が及んでいないのかもしれないけれども、それよりも何よりも漠然と自分の喜びにつながることだなと思って、子どもを持ちたいというのがあるかもしれないです。

■理想の子供数

僕は3人ぐらい。

■理想の子供数 理由

きょうだいという要素は外せないというか、やっぱりあったらあったでいろいろ楽しいだろうし、いろいろ学ぶこともあるんじゃないかなと思って。自分が兄弟だから思うところもあると思うんですけど。ただ僕は、兄と自分で男の兄弟なんですけど、男の兄弟というよりは女の子と男の子と女の子とか……

■子どもの性別の希望

まざっていたほうがいいのかと……。別に男がこうあるべき女がこうあるべきというのではないけれども、そういういろんな要素が入っているほうが、育ちのときにいろんな感性ができるんじゃないかなと思って。

■育児休業制度の取得意欲

・すごい欲を言えば、仕事も休業する前と後とで全く変わらなくやりたいという気持ちはあるので。全く別の次元でこっちもやりたいし、こっちもやりたいという、それが同じぐ

らいのレベルであるということだから。ただ、それが現実に可能かどうかということを考えて……。

・両方 100 で求めているわけだから。となると、制度的にも無理だろうし、制度的に見たら保障があつてといつても、1年間なり何か月間なり全く仕事をしていないところがあつちゃうと、やっぱりそこに戻るって、本当に無意識のところでは難しいところがある。もちろん受け入れる側も、通念として「いいんだよ」という気持ちがこれからすごく普及していったとしても、何らかのしわ寄せはかかってくる。できないところもあるんじゃないかなと思っちゃうから、そうすると難しいのかな。例えば、完全に休むという制度ではなくて、残業がないだとか、そういう意味での休業というような分野がもっとしっかりするんだったら、それが一番いいのかな。働きながらなんだから、やっぱり保育園なり幼稚園なり……。

・(育児休業を取るのは)ちょっと怖いというか、いくらオーケーだという認識があつたにしても、やっぱりゼロがあるわけだから、そこというのはどう考えても消えないんじゃないかなと思っちゃって……。自分がいくら頑張ってもやっぱり知らないところが出てくるわけで、その意味ではすごい怖いと思う。だからこそ、仕事にかかわりつつ、そのかかわり方の度合いを、そういう意味での休業というか、ちょっと減らしてあいた時間で子育てするというような形がいいかなと……。

■子育てへの参加意識

それこそ自分の子なんだから、やっぱり仕事をしていたらできない子育ての面とかあると思うんです。それができないと、変な言い方だけど損をしているというか。もちろんそこに大変な面とかもあるのかもしれないけど、逆にそういうことを経験すると、もっと子どもに対しての気持ちとか高まるのかなとも思うし……。ただ、やれる機会があつたら、やりたいというのがあるけれども……。

■少子化問題について

・多分その経済的な問題を引き起こしている原因というのが、少子化それ自身にも何らかの関係があつたりすることじゃないから、どんどん悪い方向に悪い方向に回っていると僕なんか思うんですよ。そうしたら、どこかを変えなきゃいけないのかとも思うし……

それを変えるときに、子どもをふやして変えるというよりも、もっと社会のシステムみたいなところが変わっていかないといけないです。だから、さっき話していたみたいに、男女が子育てもできるし、会社でも働けるというような本当に理想になっちゃうけど、というのを見出さないと……

・(男女が働いて、子育ても(就職も)どっちも両方どり見たいなのは)可能だとは思いますが、漠然と。

やれるときはどっちかがやって、やれないときはもう片方がやって、2人ともできなかったら、それこそ自分の親戚だったり、例えばおばあちゃんになる人、おじいちゃんになる人あたり……。

・僕なんか小さいころずっと共働きで、血縁関係は全くないけれども、知り合いのおばさんという人が迎えに来てくれて、親が仕事から帰るまで、多分8時過ぎとかまでその家に預かってもらってということをしていたんで、そういうことがもうちょっとできるようになってくるんだったら……。多分昔は一つの家族が、社会とのいろいろなつながりを持っていたからこそ地域的にできたんだと思うし。それがどんどん孤立してっちゃうと、多分そういうのが難しくなって、保育園に子どもを……。と。でも、実際保育園で遅くまでやっているところがあるかという、いま少ないわけだし、どんどん保育園の数だって、それこそ少子化で少なくなってきていて選べないという状況、入れないという状況があるから、何とも言えないんですけど。どこかが抜けたら、そこをだれかがサポートするみたいな形でやっていくと、何とか回るんじゃないかなと思います。回ります。そこが中心というよりも、それよりもどちらかといったら保育園が違う形に進歩していくことのほうが、やっぱり現実的なものかもしれない。実際知らない人ではないだろうけど、他人に預けて、しかも施設ではなくてというところに預けるというのの怖さは、多分今の世の中あるだろうし、ベビーシッターといっても、例えばアメリカだったら、そこですごい問題がいろいろ起きていてというのがあるから、何とも言えないのかなと思うんだけど。そういった親戚の関係が安全かなと。

■その他

・自分のところしか見えていないからこそ、結局自分のところだけが大切になって、それこそ知らない人に怒られたら、「何でうちの子どもを怒るんですか」みたいになっちゃうとか、そういうふうになるんですかね。

・今の話じゃないけども、僕なんかちっちゃいころ、地域で子ども会みたいなのがあって、うちの父親だとか結構その中心になってキャンプをやったり遊んだりというのがありました。そういうときには、それこそ僕自身もそのグループの中にいる知らない大人からすごい怒られたりとかもしたし、それは当然だなと思って。逆に自分の父親が僕の友達をめちゃめちゃ怒ってしかっているという状況も見たりして。でも、「何でうちの子を」と言う人はいなくて。だから、今そういう話を聞いたりすると、多分いろんな地域の人との関係がないからこそ、そういうものがわかっていないのかなという……。自分のところだけしか見えていないから、そこだけを大切にしなきゃいけない……。大切にするという意識が、自分の子しか見えてないから、そこだけに全部注がれていて……。

怒るといふ話になると、何で怒るかといったら、やっぱりちゃんとしてほしいから、大切に思っているからこそ怒るわけで、怒（いか）ってムカついたから怒っているということは絶対ないと思うんですね。それこそ教育ということに関して。だから、それを勘違いしちゃっている人が多いのかなという……。

・(子どもは)できなかつたら、でもそうなったときで。おれもいま自分で言ったけれど、できないという可能性もあるわけで。

・それはそれで、別に血縁関係がなくても、自分がそこに喜びを見出せるんだしたら、僕

は(養子でも) いいかなと思っています。でも、そこまでして、自分たちの血縁の子どもじゃなくて子どもを欲しいかどうかというと、まだちょっとわからない。そういう意味では、例えば夫婦だけで暮らしていくというのも一つありかなと思います。

・多分今ここで全員が理想ならば子どもを持ちたいと言っているという状況を考えたときに、持ちたくないという要素は現実的にはすごい少ないんじゃないかなと思う。1人で生きていきたいという要素はすごく少ないんじゃないか。それよりも現実を考えたときに持てないだったり、もっと違うことがやりたいから、比べたときに結果として持たないという選択があるだけで、理想を言ったら持ちたいという人がいるんだろうから、その比べるという状況が生まれるというその根源をどうにかしないと変わらないのかな。

逆に、比べてどっちかを切り捨てなきゃいけないという状況が少なくなってくれば、その度合いが減ってくれば変わるのかなと僕なんかは思いました。実際のところ、本当に持ちたくないと言い切る人はそうはいないと思うんですね。多分動物的にではないけど、そういうところでやっぱり根源的にはみんな持ちたいと思うんですね。ただ、持てない。

・僕ばかり言ってあれだけど、さっき僕らが家事をやることに抵抗がないという世代という要素が、もしこの年代が社会の中心になってくる年代になったら、もしかしたらそこら辺の意識が多少は変わるんじゃないかな。いま社会の中心にいる人間、そういう決まり事みたいなのを統括している部分にそういう意識が薄かったりすると、例えば周りのそういう目が出てきたりだとかというものなのかな。

ただ、それがずっとあるところではやっぱり受け継がれていくではないけど、そういう関心みたいなものが残っていくようだったら、それはわからないけれども……。でも、社会に入る直前の僕たちみたいなのが、多分どちらかということ子育てに関してポジティブな意見を持っている人が多かったと思うんですけど、全体的にそういうふうになっていくとしたら、多少なりとも意識が変わってくるのかなと思います。

でも、そうじゃない意識の中にこれから入るわけだから、そうしたときに、そういった考え方をもち続けることができるかということも実際問題はあるだろう。どちらかといったら、今の世の中の考え方が強いというか、しっかりしたと言うと変だけど、崩しにくいものだと思うんですね。だからこそ、それを崩せるかどうかというのはわからない。

・私はかぎっ子だったんですけど、でも、学童保育とかに行ったりして……。友達がいっぱいいたし、かぎっ子でも別に寂しくないというか、かぎっ子ならかぎっ子の時間帯は別のところで楽しんでたというのもあるんで……。5時までかな。学校が終わった時点で家に帰らずに、僕は家のほうが近かったんだけど、学童に行って荷物を置いて、学童の中で遊んでいるときもあれば、みんなで外へ行ってドッジボールをやったりとかいうのもあって。それが5時で終わって、5時になったら家に帰る。それぞれが家に帰って、僕の場合なんか親が帰ってくるのが6時過ぎとかだったから、5時に帰ってから1時間ぐらいいは1人でいたり、兄貴がいたんで兄貴と一緒にいたりとか、家の中でテレビを見てたり、おなか減ったら何かあさってつくってとか、そういう感じでしたね。

平成 16 年度厚生労働科学研究費（政策科学推進研究事業）

「男性の子どもの価値観と出産・育児に関する研究」総括研究報告書

平成 17 年 3 月

発行者：「男性の子どもの価値観と出産・育児に関する研究」

（主任研究者：辻明子）